

バナアツ便り No. 2



青年海外協力隊
細川 伸夫
職種：小学校教諭

常夏の国から、こんにちは。長かった夏休み（12/13～2/13）も終わり、学校が始まって2週間が過ぎました。子供たちの日々の成長に驚かされながら、また指導することの難しさに悩みながら活動しております。学校の先生たちも転勤があり、日本と違い交通網の整備が十分にされていないこの国では、引っ越しも大変です。海外沿いから山に囲まれた地域に移る方もいればその逆もあります。私の配属先の小学校でも3名の先生が転勤になり、新しく4名の先生が来られました。信頼関係を構築中ですか、積極的に行動して受け入れてもらえたらと思っています。



天然温泉入浴中

今回は食生活について、日本と比べてどうかということについてお知らせしたいと思います。私の住む地域では、米、パン、ラーメンがあり、食べることに困ることはありません。最近では、マヨネーズも入手可能です。ただ、家の中がホコリっぽい（これは掃除していないからではなく、竹で編んだ家に住んでいるためホコリが入ってくる）ため家の中で調理ができず、外でいつも調理してます。冷蔵庫がない生活にも慣れました。牛肉や鶏肉は入手しやすいですが、豚肉についてめったに食べる機会はありません。それは、ここでは高価であり、特別なセレモニーがないとみんな食べないからです。現地のみなさんは

はたき火で調理をしているため自分もそのようにしていますが、最初の頃は大変でした。私の住むロワナム村では、漁もさかんにおこなわれていて、さまざまな国に行ったことのある人は日本のお刺身について知っている方もいてたまに一緒に食べています。南国で食べるお刺身も最高においしいです。当然、わさびと一緒にです。

新しい生活をスタートされた皆さん、最近体調をくずすことが多い私ですがやはり健康が第一です。釘を踏んで一週間、動けなかった私ですが、アントニオ猪木氏も言っているように「元気があれば何でもできる」。ここバナアツで一番元気がなかった期間を乗り越えてそう思います。2011年で活動が終了するため、残りの期間も少なくなりました。たまに食べるお刺身を息抜きに楽しみたいと思います。



ある日の昼食

日々、小さな事件が起こり、退屈をさせない場所にいるのですが、今回無事に引っ越しをすることができました。1年住み慣れたところから離れるのは惜しい気もしましたが人間らしい生活のために配属先の意向を受け入れることにしました。次回は引っ越し先の状況を皆さんにお知らせできればと思います。日本のシステムが最近恋しくなってきましたが、発展途上国への貢献と自分自身のため全力青年で行きたいと思っています。最後に被災地の方々、私達は負けません。



さよならローカルハウス